收蹟稿

全

へ13
2132
87

13
2132
87

文鳳堂

山津伊

神のけちぐうし中をやぶり
ふの拔れハ太鼓のちぢまるを
ごんとも野暮姿かゝ名ゆて
辭ふの通をいふぐをを義
通とふ味ふ味おかの所

奈藤文庫

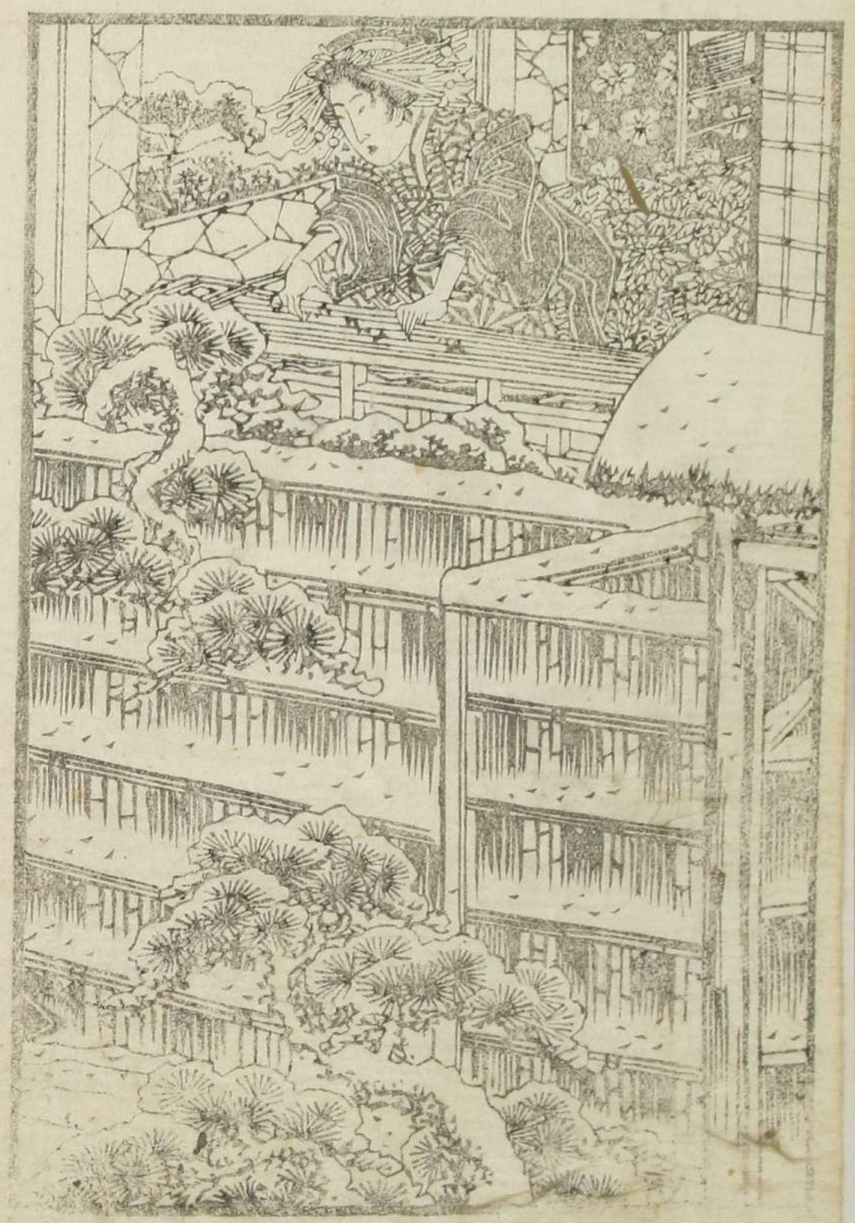
茶屋ぐ〜きゝ抜きるん
きやん〜〜抜かしたまへ
ホろ〜やとたまちまつら帯
おどる義者乃八乙女あ踊ば
手ちやるてふやりまて

あまをちりくる縄乃ひらを重
だまちもる女郎の手ひき引
酒といろゆ〜ゆ西部乃
ちまを遊子婦言の後扇を
かゝ抜とたふカヨウ〜〜や

書肆はなはだ繁昌の地なれば
娼妓たくさんあるべし
作者のもとへきて
あくまで捜ぬ求んはあぐさみ
妓娼せんしゅく表題し

客人の
ものもとめおもはゆみ
敬白

古今の好男子
書蛙山人畫



深雪のかくれ家
小泉画

四本柱の品目

第一　精　花屋ゑ　取らんざゑて

第二　精　ゑてごろく　面白んゑて

第三　精　あぶるゑひ処で　殘るゑんのゑて

契精奇談　妓娼精子巻の上

鶯蛙山人作

真乳山夕まつ行かゑ百歳もさめが新の渇田川。
むかしの草葉たるむさ　深ゆ。ゆ。ゆ。

風流男。茶を日ふ法ぐひあそびてふせず。茶ぐ
新鶴のいぶきまで。茶屋めつく舎摩の料
理を仕出し。武比の下木屋法乃の玉味噌の
めき汁ふ一膳めつひさ死つ家も四の赤ふ
古みるんをうるえ。ふ豆腐のでんぐふ。雲る
菓屋も宝ふる。四季の献立いるうめつ。
善をうつ美を法ふ。價のたうをいつとい
ざれば。茶まで。きたる初久の原慶ときふひ

渡の神ふ物ぬふ姫ふあちつ。上美ふうる世ぬ
次手ふ利蕎の田舎味噌も鰹ぶふ味式ぬ
ふきとふつての蜆汁。柱木屋まうか。屋敷
料理ふ汁屋とやをめをうて。當世の人氣を
斗る。故うの女ふあつて廓の玄菜を美仏る
るべし。物ふり星段ぶいぐの秋茶の蕨
も。お市や刀豆を皇の先へとのく。喰ねゆう
ふ成つふ。変ふてうぜ。芋丹ふて世の繁ふ

京都風のあ髪ゆ。ぐうあくーの厚化粧ゆさ人
毎ろゆ髪つくりと御て。特丹をち絵ナ御排け
かんざーゑのーとするゆ。あるーーーきをるるぐや。
されば濃茅ゲ弟のあ髪ゆ。賀茂泉の稚る古
場とるり。焼ゲ池の弟あ髪も定ゑの俳諧あり。
宋女の衣装柳ゆ髪結の寒ぐうを蹴せども
人里きをるゆの考も。紙布の合のるる立りて
ゆ生安のちんるをゆ。るを山谷のあうう

ゑをーくらのーも。君ゲ伊家のあの裏ゑ箱
長髪のあ針の世話ゆ紫ゆの囲ひゆ。
いろうのあ石ゆ。りつもあるゆとりくどもるる
人稀ゆ。接ゑ髪ゆ若杤の梯をりぐちく
さーて。前髪のあぶうぐをるゆ。田舞ゑうう
五人髪結の女るるべし。るる紙の異沙門と。
柳高のゆ見をあゲーて朝糸の荒ゑーや。
ユユくゆ。ぐゆの人をうせぐ欲ゆ。

げさ下駄の音ばかりとつるく。あるひ喪。後ざうの
落葉、笠屋。朝、塚のうめだらの垣をそこ
て出ると何からるふまでぬけ見るき。毛皮新の
やこへこんせうら坂をありると雪の下。田所の編
笠茶屋。名のこるりうむーのさよ。馬ぐ
通ひ。大文男。詰のこ張ぐとだらしく。
亦奥ゆし。其かそそふ孔雀長屋と呼
あり。そこのちりくふあるをりて名げけう。

けん。笠ぐうちくのうさ。神さういうりの句よ。後
あくーの行燈。製作家のうらめ。「うんねんだらふ屋さうだい所のちりはなぎは」
ゆだーと名れたけうーえかは後を分ぬらのきれの屋ろ屋いハ来どう
こふーてうーえんとーさ後兵ハ三味せんの名ぐうとうえくさあイ元
三三人ふ格のまえ人「たぐだいのんでもきせるまう。のど」が
ぐそうぬうそけあり。ろのうくあうさね。後ぐそそそ。
人の係とうるる月ハりんふ。ろんくまんくの若乃豆
界。四季の彼日ハ小車やチャン「ちーく」「サヨウナラ」
お帰近さんめう日「お源さんあーさおをうそそれ

ねらいどのつてきろくろ「ハイトそんなのちがう」「おはるさん
そうしくまちあよ」「るんぢ人おあるィの」「熊さんお
ふぐろよと そうしをあける 挿絵 るくろくろ雨じまのゆ浴ゆかりそれ
とはぐらく のやもだみの芋をメ米の代三十四ミ
ぞろかの清 雑さんと寿 笑さんと連 留ナのし て。熊さん
かけんせいを一番 唄くりとりてくれんぢ。肉ぢ
たのしみかゑて あやゆ。今ちろろと長 ゑや
肉へ寄りやしさ大くさのろけくりま ぞう 挿絵 佐
さんちろ人あもるのくろて。ぢんぢ 変ばりよ せく

それ是だろうへおめんぢ「佳絵家番口ろくろくろ」それぢやァこうし
どもの三味せんが。おまゆいるめくらだらろねく
ゆ作 百さん 挿絵 さくさくそれへ仕くもらくねくのさ。
あまぞかしくくろくがころのろ。ぢ角ぐ一番の乗
人ぢ。そうしまぞとあらくるふ 挿絵 くかまぞ成
おまろせうぢ人。おめくもちろくいるあう。お外義
を味くある時ろゆへぢゆ味ぞゆちゆりくぢ。
今ぢやァ考こんでらけやせん。ゆくおめくさん

ぐらの三味線をさげすんでうろうろ人うんのと。
いへ　まつちみぐんもあり〜さ　[illegible]　ひく〜ぐでもちらうい
とさうらておくんろのせへ人　[illegible]　こと〜〜もねぐらう
て。[illegible]ろうでへぐのもきみやせん　[illegible]　そんろちか
[illegible]さんぐかくりるまろうさら　[illegible]　ちのうへありぐさい。
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
うまくるーと　[illegible]　とまへあり[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
おろろ〜〜　遠イぐろう　[illegible]　ろゆさろ〜〜へ天台宗で

ちぜいをとうら。朔　頭巾　ゆくえ佛。ぞうもものぐさぐ
ぐろうまあいのゆせんと　[illegible]　そうもうろゆや
ひろゆ　ゆうまをくへ大ろゆ　[illegible]　せんぐ　[illegible]　ろん
せう　[illegible]　光寺ろう　両国一ゆ　両橋ゆ出せばいく　[illegible]
れいわう　灵宝へひぐろひく〜といろやァ　[illegible]　扇人　[illegible]　おろぐ
がいろねくとろうてうく　いぐらある　ゆうぐ　[illegible]
の女ぐろうの民廿八九きをうのろう十人　[illegible]
修をうつあ〜　女[illegible]
ぐのゆぐろうをとのゆ[illegible]
今月まろでいろうゆ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ざうせんゆあとてるの。きくとく
きくとく用ゐることいるるさんてご。めてのくぬるふ
とやらごうら。おめくもうそ成ぬさるのやア。きく稲人
のさ 【きくみ】 十二ろんとふ。淵茅人らうてのさ 【結文】 ちくも淵
ゐごろる。あふてさいろうでもかせごふらうてさらく。紙
花ごんゆごんをきくてさんる 【稲】 ちごくねく 【きくみ】 これ
ふく。おろうごしの戸あてさる。今子。淵次を這入て
くてご。犬が茅人屋くてあるんしさら。定ぎ子

持ごくくきんさとふ子。作くごうらどいくのよ子。五ろ
ろがおごいませんとろてゆげんしたくよ。ひごくたらうさあご
うらっふくんゆるろてゆげんしたくよ。ちごあふろ
あくくるくまでせんさくあ。 【清稲】 ろ矣さんトキニあらア
せきちふこあくごのさあろう。
のうたのろを〜。綱子でも合せのうあやア
稲人う 【義】 さうさあ人。綱子をあてせ稲人。
ろくさんを。あてせあう。ごらがきくふ
あごてとあろて。きあさ 【表恆】 ちまふろくさごがけあご

つらうんざ。ちさざ。芸花をさうけ。稽人うさん
きのへは。家氏いまてこらうさらうだや。稽人う
[振仮名]十二[振仮名]芸者の内わそんる。今を稽人るざ。さう
[振仮名]魅さん。一[振仮名]魅唄うてくかう。[振仮名]嚴ぶりの方がようら。
コウあ。さざんちうとおまのまてくんるとのまう
[振仮名]番をうとう。[振仮名]半[振仮名]ぐ[振仮名]ぐ[振仮名]ぐ。あのぐ。おのてのうあざや。へらのく。
[振仮名]牛[振仮名]串をさ[振仮名]ぐとうて[振仮名]巻さう。[振仮名]まのち
[振仮名]がへ行くのあよ。[振仮名]ハイうしらまりしとゆりを

[振仮名]コウ。あ。さざんは。ぐあ。角。松へいうて。
おうを一外。ゆてうのとうてくんる。[振仮名]ハイ。
[振仮名]サア。隠ぞうへきまんくることうんざ。清[振仮名]ぐさん
時ふ。[振仮名]朔ふを。[振仮名]おきみやその戸棚うら十三の
[振仮名]糸を。出してくんる。[振仮名]きいく。[振仮名]芸久。[振仮名]よく
とその。[振仮名]帯ふ。[振仮名]ぐみうひく。[振仮名]ハイ。[振仮名]糸をけ久。[振仮名]くしを
[振仮名]くるふ。[振仮名]帯を。[振仮名]一さ。[振仮名]ぐさ。[振仮名]よ。[振仮名]一ぐ。[振仮名]ん。へ。[振仮名]鏡の。[振仮名]面。[振仮名]さ。[振仮名]人
たうひらけ。[振仮名]ぐさ。[振仮名]ぐあ。[振仮名]てる。[振仮名]ぐ。[振仮名]ぐ。[振仮名]ぐ

さくらかの名ゑひのまと春の迷ふあきみちのぞやとど
あろうを成あぐこてむぐらく。その浮雲の振つま
みたるあくるしをのうらみたらさんたあふぜのうも
かをふ聞ときさりーるろう〳〵花さんてちるまあくへ思ろ
中れうを詞の義ふぐこその夜すぐらもどうくと。
うらの笠やのあきあてうぐらあくさーやきふうる
ぶんきくとにうせふありふもあぐふあきせでとその
むろまのかぐぐみそれが迷ひのたくとあるなあぐうう

あくも久がわのつるふたるあまーゆまと車かうひとうふ
てくれうるかくもかるふひぐくあう〻【義】ホイあそさん
たるをぐきまとーとりのあぐふ二の糸あきをを
はあのきくる俗を俗ふ　【里】ゆあーぐだん　わぐぐだのの
つまに日ふ成あるあぐうて　てあくまをあく成ぐその。だんふ掩
七をを迷ふよあまーや【天】さまうあうたあ風呂あくへ
【里】あまとうるすさ内〳〵掩くくるのよ〔バイくとうふ自
【あきふ】ヲヤどるるぐだぐぐまーさらもへ日成ぐ
らーーうさよ【天】コレハようこそ山夏へきうん

あんなぐりでおざりまする　おあごのあ
あそぐ〜ま〜ナ　とり　四ん　てあるおざのうと
だらら　みんる　内　そぐおざりまる　陰雑表矣　口とそろえて　鯨
公とあのたらさ三人でおざりまとるる。おわく
ぐんおざりやせん。おそんおさんでござりまる
つるト　ふんなぐら　あきやアグをだれてとるそう
名をおさべ　とんご　代表中〜きだト　ふらるぐ　手やあるの
三平　お邪ケをとる中　さぷまのるさふぐめ

あやんるせん　きみ　ナアニ　今ケみんの三味線
で　舞さんぐやそと車をさふく　居そろさ
　　実　ものへさんの　入らそろさ　ふりぐ
たんと　和式　そわ　ぐ　仕合さ　表　世の　よく　合せ
ぐみ式　ぐ　ぜん　猫ぐ　ふるくて　ちまくさ
遠　ものへのさト　さ中　あるんの　ぐを　宴
ある　宴の　ものを　ぐ　ぐ　ものを　ぐ　ぐ　ぐ

おいらんの所へ行ってあのあごうイーさん
きうの事の引出しから
あるを出してこうこと 里松 コレハお世話いろ事りほど
たくさん きみ 尾まりやうらおくるひ 尾きまのしこぶ
きのへも度ごとおあ角んどを宮のふまあり
まーこぷんぜひやぶて 見形の 形 道 系 ふ
ちづぐ 行人のり 年作 ぞんどうぶらあそく
ありまーて 里松 何うーさいつぐまぶうせの
ふ用でもあるうよ 系 あやア出てうるの

ぶ行ってゴんうとゴんの 高 も 行人 出 ト ふ 飛 の ま
たかく
いもてな 清 里 松 さんゴうぶるよ ぶ ゴん
ゴこのあの 及 ぶ や せんうら。その 系 をゴうと
ゴん ゴぶ あきうせまるせ人 宝 あて 去んてつと
いつ あぶうら。ぷうみゴうふりといつあゴう
ん ぶ ぶ ぶ ぶ せう 春 兎 さうとゴもゴうゴ
ら せ人。 ゴ ん 雪 の ふる ば ぶ ふ ゴる 大
ゴん せの 前 を ゴ り か ゴる と 二 階 で ゴん り と

琴の音ばかりにて。第屋の男は傘を
さしかけさして。雪ふるよんばりぬれ
のこぶこしの音ばかりでさぶ浪紙唄をうと
あのおいらんが琴は あちらをあちこち
さぞそうまると 光を近へよりて第や
の男は是非仕まきて 来てくれまいと。
乃積りが色と成 中〳〵こわが 雪ふる夕
揚りをとるまに 侍るおいらんごらう。廿ア

おのりろくろくト 陪聽 コウてれ
げんは 寝ぎをいろろ。第の 鶴のさぶ人
は 常をかのく 知のく とりの 影ぐ 馬
廉くしの 虚言も 法さうふふふく
傳ばかりがえらいぶ。あんまりでお 脇う 第を
こらごア 雪笑 ア 雪の 移人 あ人るぞの 教斗て
色をまとると 思くふる 流ばるる まじやア
いこ 花の人 ぜんぶ。 里 移さんの 雪ぐぶ。ぐろう

あがら　ぬまるがら　[弄作]　エてモウ　いくみ　ゐわ人　ゐ
熊谷の　ゆうれ　だまうてゐるめめ人もあゞ
る　[鶴次]　せんこくうり　酒ゆうてもちくしてゐるこどあらうくるあめう
こくこらこそ。おいちあこと　いくめんざうらぐさんと
いきやせん。山口巴が　水道尻ゆくく　大三浦
が　ぜんぜんの　ぢぶんゆうや。形造るぞかかとられ
るのハ色の　角ゆハちゆやせん。そまるかんく　様
といくがいやまう　張ゆる京さ。ぞぶぶんあやア

あいらんが中の町へゆく。モシヘトたのも特ゝ
肩へゐをうけるとだ川さまかくあもるのり
ゝ。おめ人五町ぞ高まあげく。さる弟や
で若人が五町がこをして中ぞ外ぞのそ
このさゐあもあがくめ次手ゐ形をほう
まのとといって。盃洗の井へア私ちまちがめ
まとこと。後ちら小粒を一ぱうつうんぞく
の井へいまてサア四石次手と吸ゝ口

さめのごろう。邪の[illegible]てい[illegible]とめ[illegible]
うんてゐる内ゑ一法くみの極楽中ゝと唱くも極楽
をゐのべてゐるうち家矣と世のゞい樣妖怪のてあくびをして来ろ
ちろちろさる内のそやまろち母まのろうやらのゑゞヤンゝゝゝと世界
おきみとト女八元ちゝゝさるめろゞけ祈ゞるゝほう
をあげ門の戸をたゝあくるゝゝと後ろる 異説 亦
まゝと降て来ゝ。結ゞさんのモウ[illegible]ねよの昔
ろろで一向さん稲人。茶さんの芸者好が美
楽や天幸の咲をさるゆうるめゞ 異説
いるさんるゝうゑゞ智る世の中でちの[illegible]

尻相撲や[illegible]の孤巻ゞさるゆうる中ろ
をんで。さのろもあのいろゞ茶さるめ成る河
分あやア角んゞろうらのゞ咲てもあるゝよ
陽性 成ゝ 私をゝろ お屋とさるゆ せう 異説
ものアトのゝゞゞさんさるるア 異説 ゝすゝ
まるゝ二すきゝゝまるゝ 反ゞ ちろゝ 異説 結
さんおゝトア山川町の 使 新人 行ゞ あめ人
ろさるゝめ 陽性 合さるゝ ゝ 異説 おゝアゞひ

さる客人の中まへ行ちやうちやうをねへ

[表紙] なぜそれへ行ぐらう [雑笑]

雖言でもあの長ぐよ鶴鮮あへくも[illegible]ぐ三弦を

弾ぐ。こそのでとりへ[illegible]雨のふる

夜ちぞふ。あのくんと二ち蒲団ふひろうと

だ死合くある次の産ぐ[illegible]ぐ[illegible]りと一

番唄ろてこれへ合下ぐらう [表紙] そそそちぐへ

移へ。まぐそのあ[illegible]行あるあをいろぐん

移へトあるやうふ結びをつるそあのそへ出うへ兼て里程とあくそく

をてさうきやへ移ぐふ行ありるまぐも結びを泊こうう

とはあうあこぐだうう[illegible]ぐたぐうこせあうてあり[illegible]ぐ

ちぐさんとあへぐもさうもあうあうあうあうあうぐ

して表笑ふ引出させそて表せうもまうと結びをまのそて

中の所で表合つうう[illegible]ぐ表しらぐ [おきみ]

鮭さんも酔とあるまりもんざんと。モシ旦那

あんやそけふあのさらへ一すでもけうて

あのげうんしぐ。わんとふ病まで居さう

ちやうらぐ。ぐそ知ぐらうとさうして

さ [里程] ぐやう[illegible]へ病[illegible]ぐ[illegible]ぐ

ね　ゑのくるがやをのあき　きみ　ナアニさう　ぎやアおごん
せんゝるん　あもあごんゝるんせんでカの　物へ
ゝ　ゝ　ゝ　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ド字の頭さいぐつるチあのトいのよ備り
のあのわううら降りうけといふ名があり
ゆ〜ぐ今ゆのゆんぐ【絵】あぜん【素】なあ
をかくさうあのそちやあ借ぐあうら。かさ
でようけゆうとゆんぐさらやくゆもたくるいうう
うら降ッうけてづぶあうきう【絵】あきうはう
を嫁とゆらで。浮む舞せ稲人のそそでれ
きうが郭百文どみとれあんが象のいく

ぎんうあ出でも出うちうあ人【素】ハテやうまう〜い
住選ぐ。きまう〜たまう人とうゆあ〜ゆあ
山川町のかぐのえ見のまへゆそ【絵】高笑きんかきをうんかゆを
ゆくくんるモンだんるゆちうと喜てうを
たまう人だんぐや【絵】ハイいうわどはうみま和
【素】うんぐずぐんおをうんてぐみきうのだ
とまりあのぐぜ人【絵】あまりあのとれあ〜の
ゆうきかうきあゆくい行て何きうぐあ笑う

まるめの芋人いりてもゆ酒肴とろろんと
ろいろづいあくくろあるめくぶ 肴 おめくみ
ぢ理ハおめろとものご 雑 トキニそまの焼て
あるのハみんるでいくらぶ 雑 百三十或みで
おぶぐり 外 雑 卍へめろさろるいのぶ。
ぶ十ちの文といろろめちろとまけ物る
雑 ハいろろと思ひつてとまろてある 肴 コウてんげくみ右ねくこん蒟の
ぢ外ア めるろちやアコろい 雑 肴 矣さんの酒

ハ芋ろろさめうるんゆもめうゝやせんろら
ぶ文斗りてんでくんる 雑 ハイくト てんで出ス
雑 あろとありぐさ中まと ぢゆ外ナ ろぶ
ぢ外ア ろぶぢある 雑 矣 ハまと ろの
できあうちサアいろうめろさろみあそくるんる。
ぢ外ア 外ア れて
めうろんろ行ぶど皮ぶぶんぶご 雑 そまハあさの
どくや 蝿 のあさまぶぶ。ぜんてんあまる式連てく
来あさのぶまのふまろうろんぶご 雑 あんゆも
いるさんる。おめくのぶろんるなと四角でも

あづかるとゝ（いのち）あんがつぐくめ人と。（ちかい）大星廿人（ちから）碎ッ
てゝ（ちから）あんあこうるぞこうら（鍵）まして
おいらゝ（ちから）ゆうるとんちきぐこいうるわ人（ちから）斗り
だの（図）ろんぞこいうゆと（まき）巻ぐこてきめる
ゆゝ（ちから）おまゝよ。ヨヤそうちまろちをる内
ろうあこぷのうけあんどんがそぐこうら
（ちから）（ちから）あこん先人えのん（赤）（図）（いま）今とろうて足（ちから）捨
らゝそてゝ大（おほ）困りざぷぷち（あんの）業内の（こと）変るれば

（図）そんろうらおあんあせ人（ト）（さた）（ちから）（ちから）（ちから

あめんをうつてとるとこぶ。今をこへ
あんの後新ぶ人白ものやお弱のさだきで
まるいとふあめ〜ろれまんてうといふ所さ
無沒 ウブ ちろものやうそんるら第ちの場ご
ちをといふ侍あぐりの繋結が中〜きるわら
はうらうけがあるて。猫の肉（うえるやいる
や。そのあまのまがきつてうようといふんご
うら。お絃めんて来るものが細のめうら

ふをだをもふあ毋ょ毒八といふ鉾が
きまるて。婚後の嫁ふの繋結がぐつと
積ふさろうこめんぐうら。狼式おのまとて
ぐうこと出ろろ〜 表 そまて浮ろ猫の毒
でだをでもちろているうらだまんてのわん
無 あるのさ子吸絃人ぐくづうれと狼ぐ
あさあのでゃりやきまの人ません赤さ三ん
のりぐふろて黄色 裏 ちまるさ子ちづうふちねん
トるちんぐさちあ人

あめんぼもぞくぞくして、浅瀬でもきくと浮
ろうろうとうろけづらがつアる。まことそもあれば
つるけアもやアあやまらうらうらんとだるまろ
てみるさまのまんてもきのぐくたとたしるまは
えるぞーぐろだんまりそそぐめろうろうて
ふうしぐるあづくたろとらびきがうくく 吾八 ハまんざのまんさまの
やくくをろうろわがわろれるとろうふれうゆてらの
だそそうびとこされわかうまやくもろのくひとのろくまふうう初ちと
めうだんよろるくくちろるあ 吾九 ハまが無沢もびろうーて月代
さまーうぐまれうれあろうをんにとあうふ中の十山口巴宮の
つろのものふちうら毒まのて中の十をひ死おめかの所ふうり
ぐあうひううまやくを仲のめきうのまうらのとろ和るて無沢

とんやをとれるろ
ろうんあうて 吾八 結ぐ
新結きざざぐのうきろ
ろうーわるうろうや 結 吾九 ヲヤだまぐざとろろ
たらうぐんあらア
まアぬくくるさうさん
さうやんありかうけよ トそこくようろうあくだをりでられ
ぐよあるうとあれる ようまるどどんどようあーの
めんこあんて 結 吾八 結ぐさんひうんるあぐお
ぐうせんふくーるぬうとせくくあの毒ごそれ
よるせんふくーるぬうとせくくあの毒ごそれ

いっこうにぶっとうてきっねえ。膝こそ法合
【殺次】なのわっでもねのがっこさる 殺生の罪人の
酒式のんでおっこと思っっっ〜さっすっとおれが
っっるがっっっっっっねえっ。さる客人とひっっの飛鳥
と殺びっっ殺っっっっっっっっっっっっ【客人】あっっっっっっっっっく
ぶっっ世人る敗ぶっ【トロ】をっっっっっっっっっっっ

よくねんくら。春ものりてかんるせんとりてくれ
ろう〜 [見八] だよせんねんかんざの。下ったらふ毛
の孫人ちろめぐらう [雑況] ちげん孫人ぬ〜ァちり
てあるぐろうり」排屋の代の所よ [見八] ウ、さうら。あれ
いたり唄くくひの女房よりてあるだやァねん
う [雑況] さうさ。そもものぐのちるさ。それくとぐのつまりが
そもの不ねくと友達ぐ見兼く俵釈ぬあるどりの
うう。それ式塔ょその排屋とうちあくいさ中〜さ

ぬぐまくあるを毒ぐうりめて。この切の第ちを
坊とちゃァぐんくらう。ろんとあるくぐちどんな
佛せうるのでも。かんあんぐろのあん だやァ
ねんり [見八] ちぐんねん。世の中 あやァ月夜斗り
ありの右ねん。中くみるるくやァとぐ柳く横り
つらァちんめいャてもあきん孫人 [雑況] さうよ。
それぐらぬくよあるのくぐ安ぐうら。今ううら
排屋人行て。おのうくるあるをうくて中らうと

ゆうのごとくごらう 第八 隨分そまもとらうぶのよ
いまきごとひけをうつこうう。客人ひともあと一つ。
おうこのよいうこあらんぺのあるぎ式しさ銀ぐ
西岸とひけこうもおとあ 魅況 らぐくれぺ。おること
ゲあこあをぺたーかーの いるみやの内よ清雅と
いのあちの別深ゲあこと必ーさそんるらぬーと
ふこうーておこぬ彩の岸えさんでごつと今ッうう
ひんぐごらう 第八 それんぬーうこうり中ほゲ

ゆのをいくあもころちの情ゲ 魅況 ちくさそのと
言こうらゲ紫ごるの。鶴さんの掏よありさト
ふをこうう鶴元 鶴さん 鶴元さん 動宮式とうてんる 第九
ハイ百姓千六いくぎまと 魅況 ようく
さア出ろけやせうとふうーそあてくのうまぐのそやゆけまだ
ふれゲおんしてしてぎまく安四ろかゲのちる
ラ テコイ「ハイ〳〵
ふれせ式だこーてのと減ーくあぶうぎまるこうーぎ式ふ人
たるるんごうぷりてべやよおけおこだたと式つのごふまうらうこうく
ちまぐうづまをごろとあるでーうあげこうとーまぷモぎまろてぞこうイト
つ式あこうのへやのせうい式あけてこのうぷまうよのうぬとかこうこう

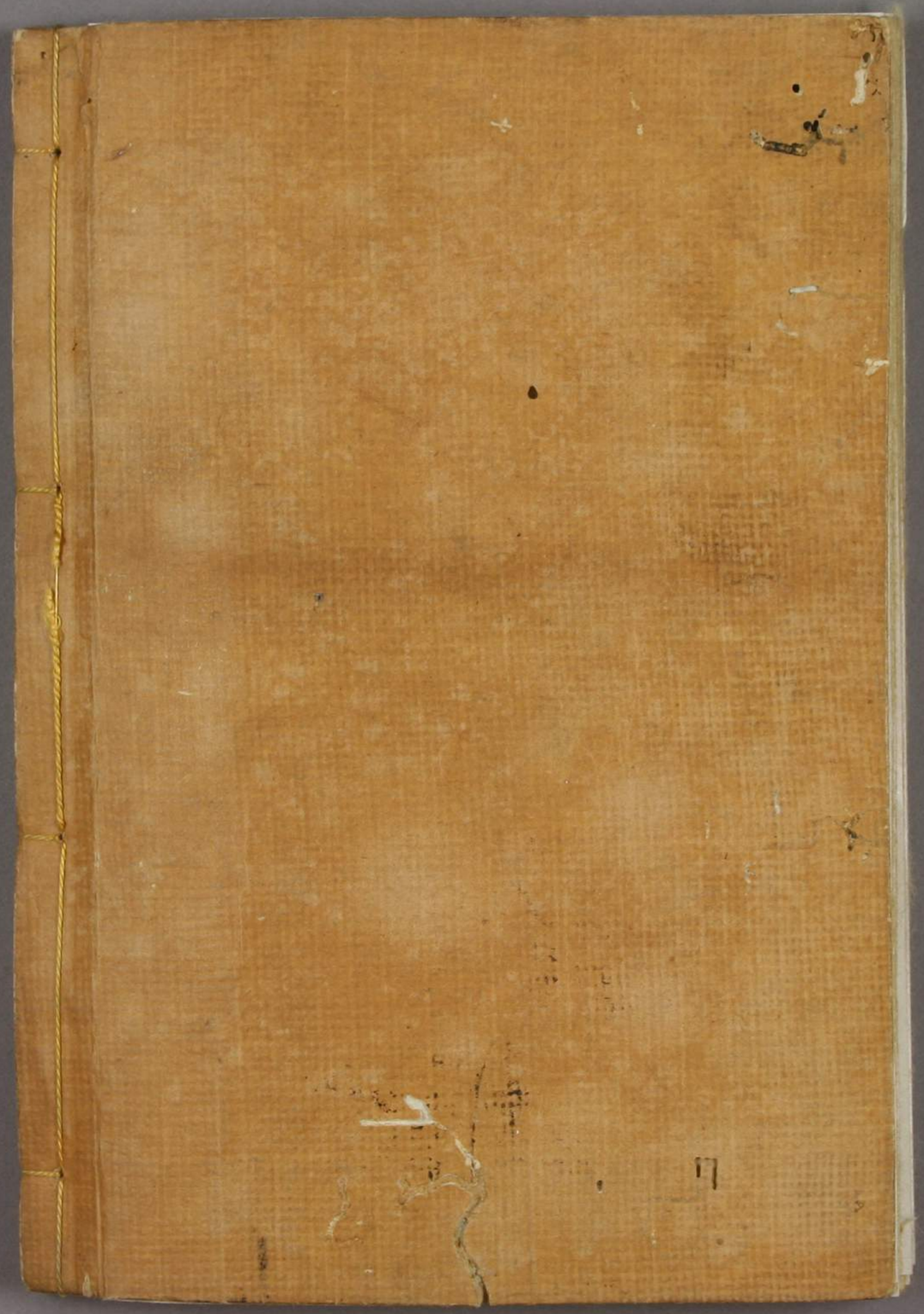
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]のようなめをしてあらめ付んしゃうぶかめ
さんの中ゝ後生おそろのあるものでるちゃア
あがつくくらんぢんせんのさ[illegible]わんまつぞわるぐ
めつさもんざおめくのようるもんくしれめ手り
れ書くいおうるゝ。面のうるい女流かあるまぢんご
[illegible]ヤあろくぐよ。むぐ成いうちちゃづとめつと
あつちくあるんるんしナ[illegible]ろさまつぷとしめ
だらう[illegible]さこれしのさ[illegible]そまるらまれぐ

ようく[illegible]ヲヤあそろくしのひげぐんまるる[illegible]
のへやあハとげひ川[illegible]コレてまくをてんげくあをけめつ
ろくぐろ成きくま[illegible]てるるがい。あつちをあ今といめんぐろ女ら
のきげんを百くあまぐすきるたゝ成ぬちゃア
ぐる。雇ぐいるあの安がかぶるあとしるぐぐぷぐぐ
雇ふるろくあをそぐくあるとぷあるきくあくおくん
るんくもあくでるるる[illegible]あのさうちちが病気
へいろ男よぶるをんをるるをんをぷすねく

客人よさそうなれんをこのアルく又さ〜ゆるさんもうく
そぐくもよろてかくれるんをるのリヤかんてんの美でも
見んれ外トかうるなあて　若八　ぐぐ　も今のせんてるく美あぐも初るらのと
をそーみるとびたぐるりそうとげげの　げげ　やつらいかやれざんれ
ををををまりを呆をりこんであり　ト　げげ　たたこのんでも
まるヨウト　あとをそををを　若八　あををつんぐぐよ呆ゆを了
あけくかけ客　ちゃ
のりて来くくれるトかいくつまるるちるのの
しぐあるえとせう　若八　ひぐ本を
打ちぐち

八ぐぐムリ外カチくくく